

## 調査結果のまとめ

### 1 まちづくりについて

#### (1) 市の将来像

市の望ましい将来像についてたずねたところ、「社会福祉が進み、健康で安全に暮らせるまち」(51.7%)が半数強を占め、最も高くなっている。次いで「都市としてのいろいろな生活施設が整ったまち」(13.4%)、「緑と青空が広がる自然環境に恵まれたまち」(10.8%)が1割強で続いている。

#### (2) 市に望む優先施策

市が優先すべき施策についてたずねたところ、「高齢者対策」(50.7%)が5割強で最も高くなっている。次いで「保健医療対策」(34.2%)、「防犯・風紀対策」(27.0%)が3割前後、「雇用・勤労福祉対策」(20.8%)、「公共交通機関の整備」(19.9%)、「保育・児童対策」(18.8%)が2割前後で続いている。

#### (3) 地域活動への参加状況

地域活動への参加状況をたずねたところ、「全く参加していない」(34.9%)が最も多く、次いで多かった「あまり参加していない」(27.1%)と合わせた《参加していない(計)》(62.0%)は6割を超えている。一方「参加している」(11.8%)、「ときどき参加している」(23.2%)を合わせた《参加している(計)》(35.0%)は3割台半ばとなっている。

##### (3-1) 参加している地域活動の内容

地域活動に「参加している」または「ときどき参加している」と答えた方に、どのような活動に参加しているかたずねたところ、「自治会活動(地域の盆踊り・運動会などを含む)」(70.3%)が7割を占め、突出している。以下「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」(12.7%)、「地域安全活動」(12.5%)、「子どもの健全育成を図る活動」(12.3%)などが1割程度となっている。

##### (3-2) 地域活動に参加して感じたこと

地域活動に「参加している」または「ときどき参加している」と答えた方に、参加した感想をたずねたところ、「地域の人々と交流し、顔が見える関係が作れた」(65.8%)が6割台半ばに達している。次いで「楽しく充実した時間を過ごせた」(34.1%)、「地域への愛着や親しみが増した」(33.7%)、「自分自身の知識が広がった」(33.3%)が3割台、「地域のために役立つことができ、嬉しかった」(23.5%)が2割台で続いている。

##### (3-3) 地域活動に参加していない理由

地域活動に「あまり参加していない」または「全く参加していない」と答えた方に、参加していない理由をたずねたところ、「参加してみたいが、暇がないから」(32.4%)が3割強で最も高くなっている。次いで「関心がないから」(20.0%)が2割、以下「めんどうだし、わずらわしいから」(17.5%)、「参加してみたいが、機会がないから」(17.3%)、「健康や体力に自信がない

から」(17.1%)、「参加してみたいが、どうやって参加したらよいか分からないから」(15.8%)などとなっている。

## 2 市民協働について

### (1) 市民協働のまちづくりの進め方

地域の特色を生かしたまちづくりを進めるために市民や行政がどのように取り組むことが重要と考えるかたずねたところ、「地域住民やNPO、ボランティア団体などと行政が、それぞれ役割を分担し、お互い協力してまちづくりを進めていく」(44.4%)が4割半ばで最も高くなっている。次いで「市民の意見をよく聞いて、行政が主導で進めていく」(24.0%)、「地域住民やNPO、ボランティア団体などの協力を得て、行政が主導で進めていく」(23.6%)、「地域住民やNPO、ボランティア団体などが、主体的にまちづくりを進めていく」(4.2%)となっている。

### (2) 市民と行政が連携や協力をするにあたり重要だと思うこと

市民と行政が連携や協力をするにあたり重要なことは何かをたずねたところ、「連携や協力をして取り組んでいる活動の内容が、皆に分かるようにすること」(54.0%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで「地域の課題や取り組みの目的を話し合い、共有すること」(47.9%)、「お互いの立場を尊重し、理解し合うこと」(45.3%)が4割台、「お互いの役割分担をよく話し合った上で決定し、活動すること」(33.8%)が3割台となっている。

### (3) 「市民協働推進条例」「市民協働推進基本計画」の認知度

「相模原市市民協働推進条例」「相模原市市民協働推進基本計画」を知っているかたずねたところ、「知らない」(79.7%)が約8割に達している。以下「名称は聞いたことがあるが、内容は分からない」(16.5%)が2割近く、「知っている」は1.9%にとどまっている。

### (4) 市が取り組む協働推進施策の認知度

協働推進のために市が取り組む施策について、知っているかどうかをたずねたところ、「知っている」「まあ知っている」を合わせた《知っている(計)》は、(7)ユニコムプラザさがみはら(市立市民・大学交流センター)(13.4%)が最も高く、次いで(6)さがみはら市民活動サポートセンター(12.8%)、(5)さがみはら地域づくり大学(12.4%)となっており、これら3施策では1割を超えている。

一方、「あまり知らない」「まったく知らない」を合わせた《知らない(計)》は、(4)市民・行政協働運営型市民ファンド「ゆめの芽」(92.9%)、(3)相模原市協働事業提案制度(91.4%)の2施策で9割を超えている。

### (5) 地域活動や市民活動を進める上での課題

地域活動や市民活動を進める上での課題についてたずねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う(計)》は、(10)自分たちではどうすることもできないことがある(77.7%)、(8)活動の輪が広がらない・担い手が不足している(77.5%)が8割近くに達している。次いで(1)情報の収集・発信の方法が分からない(74.4%)、(6)資金不足・資金調達の方法が分からない(73.4%)、(11)活動に携わる時間がない(72.9%)、(2)情報

が不足している（71.0%）が7割を超えている。

一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《そう思わない（計）》は、（3）講習会や研修会などの機会が少ない（35.1%）が3割台半ばで最も高く、次いで（5）活動拠点の不足（30.5%）、（7）周囲の理解があまり得られない（29.0%）が3割前後となっている。

#### （6）協働推進のために優先すべき施策

協働を推進するために市が優先して行うべき施策についてたずねたところ、「地域活動や市民活動情報の収集と発信」（51.0%）が5割強で最も高かった。次いで「協働への理解と参加を促すための広報などの普及啓発の推進」（42.5%）が4割強、以下「協働による事業への財政的支援」（29.7%）、「協働を推進する拠点となる場所（施設）の提供」（27.0%）が3割弱、「協働の担い手のための研修会などの開催」（26.0%）が2割台半ばとなっている。

### 3 建物と地震について

#### （1）住宅についての地震への不安

居住している住宅について、地震に対する不安があるかどうかたずねたところ、「やや不安である」（37.3%）が4割弱で最も高く、「不安である」（25.3%）を合わせた《不安である（計）》（62.6%）は6割を超えている。「あまり不安はない」（23.4%）、「不安はない」（9.0%）を合わせた《不安はない（計）》（32.4%）は3割強となっている。

#### （2）昭和56年5月31日以前に建築された建物の耐震性に関する認知度

昭和56年5月31日以前に建築された建物の耐震性に課題があるかどうかを知っているかたずねたところ、「聞いたことはある」（58.9%）が6割近くを占める。次いで「よく知っている」（29.9%）が約3割、「まったく聞いたことがない」（10.5%）は約1割となっている。

#### （3）耐震診断の認知度

「耐震診断」を知っているかたずねたところ、「聞いたことはある」（67.4%）が7割近くを占める。次いで「よく知っている」（25.5%）が2割台半ば、「まったく聞いたことがない」（6.2%）は1割未満となっている。

#### （4）市による住宅に対する助成制度の認知度

住宅に対する耐震診断や耐震改修工事の助成制度があるのを知っているかたずねたところ、「知らない」（67.7%）が7割近くを占める。「知っている」（27.5%）は3割弱となっている。

#### （4-1）市による住宅に対する助成制度を知った手段

住宅に対する耐震診断や耐震改修工事の助成制度があるのを「知っている」と答えた方に、助成制度をどのようにして知ったかをたずねたところ、「広報さがみはら」（73.1%）が7割以上で突出して高く、次いで「地域情報誌（自治会回覧板）」（24.9%）が2割台半ば、「口コミ・知人からの紹介」（16.5%）が2割弱となっている。

## 4 災害情報の確認について

### (1) ひばり放送の内容の確認方法の認知度

ひばり放送の内容を放送以外の方法で確認できることを知っているかをたずねたところ、「知らない」(57.0%)が6割弱で最も高くなっている。「知っていて利用している」(22.7%)、「知っているが利用したことがない」(19.2%)は2割前後となっている。

### (2) 災害発生時の情報確認手段

災害発生時に災害に関する情報の確認方法をたずねたところ、「テレビのニュース速報など」(70.8%)が約7割で最も高く、次いで「ひばり放送」(57.6%)、「緊急速報メール」(55.1%)が5割台で続き、「さがみはら防災メール」(28.8%)が3割弱となっている。

#### (2-1) さがみはら防災メールを利用していない理由

さがみはら防災メールを利用していない方にその理由をたずねたところ、「知らなかったので利用していない」(59.6%)が約6割を占め、最も高くなっている。その他の理由についてはいずれも1割未満となっている。

#### (2-2) t v k (テレビ神奈川) データ放送を利用していない理由

t v k (テレビ神奈川) データ放送を利用していない方にその理由をたずねたところ、「データ放送を配信していることを知らないため利用していない」(46.9%)が半数近くを占め最も高くなっている。次いで「他に情報確認手段があり、データ放送は不要なので利用していない」(26.7%)は全体の4分の1強、「データ放送を配信しているのは知っているが、操作方法を知らないため利用していない」(8.9%)、「t v k (テレビ神奈川) が受信できないので利用していない」(4.1%)は1割未満となっている。

### (3) スマートフォン向けアプリケーション「Yahoo!防災速報」の利用意向

「Yahoo!防災速報」の利用意向をたずねたところ、「利用したい」(43.4%)が4割以上で最も高くなっている。次いで「利用したくない」(40.3%)が約4割と、小差が続いている。「すでに利用している」(8.0%)は1割未満となっている。

#### (3-1) スマートフォン向けアプリケーション「Yahoo!防災速報」を利用したくない理由

「Yahoo!防災速報」を「利用したくない」と答えた方にその理由をたずねたところ、「スマートフォンを保有していないので利用できない」(47.7%)が半数弱を占め最も高くなっている。次いで「他に情報確認手段があり、アプリケーションは不要なので利用しない」(24.1%)が全体の4分の1弱、「アプリケーションのダウンロード方法が分からないので利用しない」(12.2%)、「アプリケーションのダウンロードが面倒なので利用しない」(8.5%)は1割前後となっている。

## 5 食育について

### (1) 「食育」への関心度

「食育」への関心の有無をたずねたところ、「どちらかといえば関心がある」(44.2%)が4割

台で最も高く、「関心がある」(34.1%)を合わせた《関心がある(計)》(78.3%)は8割近くに達している。「どちらかといえば関心がない」(11.2%)、「関心がない」(5.5%)を合わせた《関心がない(計)》(16.8%)は2割未満となっている。

#### (2) 「食育」に関する活動の実施状況

「食育」に関する活動をしているかどうかたずねたところ、「できるだけするようにしている」(32.3%)が3割強で最も高く、「積極的にしている」(4.8%)を合わせた《している(計)》(37.1%)は4割弱となっている。

一方、「あまりしていない」(25.6%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(21.4%)はともに2割台で、「したいとは思わないし、していない」(7.8%)と合わせた《していない(計)》(54.9%)は半数を超えている。

#### (3) 食品の安全性に関する基礎的な知識の有無

食品の安全性に関する基礎的な知識の有無をたずねたところ、「ある程度持っている」(48.3%)が5割弱で最も多く、「十分に持っている」(4.0%)と合わせた《持っている(計)》(52.3%)は5割を超えている。

一方、「あまり持っていない」(35.3%)、「全く持っていない」(7.3%)を合わせた《持っていない(計)》(42.7%)は4割強となっている。

#### (4) 安全な食生活を送ることについての判断

安全な食生活を送ることへの判断についてたずねたところ、「ある程度判断している」(57.3%)が6割弱で最も高くなっており、「いつも判断している」(9.2%)と合わせた《判断している(計)》(66.5%)は7割近くに達している。

一方、「あまり判断していない」(26.2%)、「全く判断していない」(3.2%)を合わせた《判断していない(計)》(29.4%)は約3割となっている。

#### (5) 地域等における共食への参加意向

地域や所属コミュニティでの共食への参加意向をたずねたところ、「とてもそう思う」(5.8%)、「そう思う」(28.6%)を合わせた《そう思う(計)》(34.5%)、「あまりそう思わない」(25.1%)、「全くそう思わない」(8.3%)を合わせた《そう思わない(計)》(33.4%)は、ともに3割台半ばで拮抗している。「どちらともいえない」(27.7%)は3割弱となっている。

#### (5-1) 地域等における共食への参加状況

共食への参加について「とてもそう思う」「そう思う」と答えた方に参加状況をたずねたところ、「参加した」(61.2%)が6割を超え、「参加していない」(38.4%)は4割未満となっている。

#### (5-2) 地域等における共食に参加するための条件

共食に「参加していない」と答えた方に、参加するにあたっての条件をたずねたところ、「食事会などが参加しやすい場所で開催されること」(63.2%)が6割強で最も高くなっている。次いで「食事会などが参加しやすい時間に開催されること」(53.9%)が5割強、以下「友人や知

人からの呼び掛け、誘いがあること」(44.0%)、「安価で参加できること」(38.3%)、「地域や所属コミュニティからの呼び掛け、誘いがあること」(36.3%)、「時間的なゆとりがあること」(33.2%)などとなっている。

## 6 レジャー・レクリエーションについて

### (1) 行ってみて良かった市内のレジャー・レクリエーションスポット

行ってみて良かった市内のレジャー・レクリエーションスポットについてたずねたところ、「相模原公園・相模原麻溝公園」(57.9%)が最も高く6割弱、次いで「市役所さくら通り」(40.1%)が約4割、以下「淵野辺公園」(36.6%)、「相模原北公園」(35.8%)、「相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら」(31.4%)などとなっている。

### (2) 行ってみたいと思う市内のレジャー・レクリエーションスポット

行ってみたいと思う市内のレジャー・レクリエーションスポットについてたずねたところ、「JAXA相模原キャンパス」(23.2%)、「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」(23.1%)が2割強でほぼ並んでいる。以下「芝ざくらライン(相模川散策路)」(18.1%)、「藤野芸術の家」(13.3%)、「相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら」(12.8%)、「陣馬山」(12.3%)、「小原宿本陣」(11.8%)、「市立博物館」(11.1%)などとなっている。

### (3) 観光場所を決める際に参考とするもの

観光場所を決める際に参考とするものは何かをたずねたところ、「家族や知人などの話」(49.2%)が最も多く約5割、「目的地のホームページ」(46.2%)が5割弱となっている。次いで「テレビ番組」(41.7%)が4割強、以下「雑誌」(30.6%)、「ガイドブック」(29.1%)、「旅行会社のパンフレット」(25.8%)、「目的地について書かれた個人のサイトやブログ」(20.3%)などとなっている。

## 7 広報紙について

### (1) 市の情報を得る手段

市の情報を得る手段についてたずねたところ、「広報さがみはら(紙面)」(66.6%)が7割近くに達し、最も高くなっている。次いで「自治会・公民館だより」(27.3%)が3割弱、以下「家族・友人・知人・近所の人」(19.5%)、「インターネット(市ホームページ・SNSなど)」(18.9%)、「新聞」(14.3%)、「さがみはら市議会だより」(13.8%)などとなっている。

#### (1-1) インターネットを利用する手段

市の情報をインターネットで得ている方に、利用する手段についてたずねたところ、「パソコン」(69.2%)が最も高く7割弱、次いで「スマートフォン」(61.6%)が6割強となっている。「タブレット端末」(13.8%)は1割程度、「携帯電話」(4.7%)は1割未満となっている。

### (2) 「広報さがみはら」の閲覧状況

「広報さがみはら」をどの程度読んでいるかをたずねたところ、「おおざっぱに読んでいる」

(44.7%)が最も高く、「よく読んでいる」(19.4%)を合わせた《読んでいる(計)》(64.0%)は6割以上となっている。

一方「あまり読んでいない」(17.1%)、「知っているが全く読んでいない」(10.8%)、「広報さがみはら」を知らない」(5.8%)を合わせた《読んでいない(計)》(33.6%)は3割台で、全体の3分の1程度となっている。

### (3)「広報さがみはら」でよく読む記事

「広報さがみはら」のどの分野の記事をよく読んでいるかたずねたところ、「観光・イベント」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、次いで「健康・医療・介護予防」(32.6%)、「自然・公園・緑・花」(32.4%)、「表紙面・特集面(カラー面)など、市政に関する重要事項に関する記事」(31.8%)、「ごみ・リサイクル」(30.5%)が3割強、以下「地域や区の話・お知らせなど」(28.2%)、「国民健康保険・介護保険・税金など各種制度」(26.7%)が3割弱、「趣味・講座」(20.8%)が2割程度となっている。

### (4)「広報さがみはら」で充実させてほしい分野

「広報さがみはら」で充実させてほしい分野をたずねたところ、「観光・イベント」(17.6%)が最も高く、次いで「国民健康保険・介護保険・税金など各種制度」(16.9%)、「健康・医療・介護予防」(16.6%)が、それぞれ1割台後半となっている。以下「補助金・助成金など各種サービス」(11.9%)、「地域や区の話・お知らせなど」(11.1%)、「自然・公園・緑・花」(11.0%)、「福祉」(10.6%)、「趣味・講座」(10.1%)がいずれも1割程度となっている。

### (5)「広報さがみはら」の情報量

「広報さがみはら」の情報量についてたずねたところ、「ちょうどよい」(65.7%)が6割台半ばで最も高く、「足りない」(3.0%)、「やや足りない」(11.2%)を合わせた《足りない(計)》(14.2%)は1割台半ば、「やや多い」(2.8%)、「多い」(1.0%)を合わせた《多い(計)》(3.8%)は1割未満となっている。

### (6)今後の「広報さがみはら」に望む紙面

今後の「広報さがみはら」について、どのような紙面が望ましいと思うかたずねたところ、「写真やイラストを活用し、読みやすく、分かりやすい紙面」(49.7%)が約半数を占め最も高くなっている。次いで「今のままでよい」(32.7%)が3割強、「文字を中心とした、記事を多く詰め込む紙面」(2.1%)はごく僅かとなっている。